

東京蜘蛛談話会通信 No. 98 (2000年2月6日)

編集・菅原文雄 / 脳・板 東京都豊島区 カリントー

写真 池田博明

1999年度採集観察会

会場 所：山梨県 扇山

☆最終回 2000年 2月20日 (日)

☆集 合：JR中央本線鳥沢駅改札口周辺 午前11時 (時間厳守)

→改札口は1カ所しかありません。

付近では弁当を買うことができません。持参お願いします。

雨天 決行！ (もちろん雪でも)

☆コース：鳥沢駅から甲州街道を渡って、扇山登山道を直進します。
山頂までの途中で、昼食午後の採集となる予定です。

☆世話人：新井 海 1月(042-522-2605)

大川 秀治(042-744-1470)

会費が値上げになります

2000年度より、一般￥3,800 になります。1999年度以前の会費は￥2,800です。合わせて納金の方はお間違えのないようにお願いします。

p. 12の会費納入状況を参照してください。

尚、学生会費は￥2,000のまま据え置きです。

会費についてのお問い合わせは、下記まで。

会計担当：安田明雄 〒226-0011 神奈川県横浜市緑区中山町329-1
中山駅前ハイツ506 (Tel 045-934-9210)

郵便振込口座番号 東京蜘蛛談話会 00170-8-74885

No. 99の原稿締切は4月末日です！

∞∞ 総会・例会のお知らせ ∞∞

日 時： 4月23日（日） 10:00 ~

場 所： 東京都国分寺市 「国分寺市商工会館」 3階大会議室

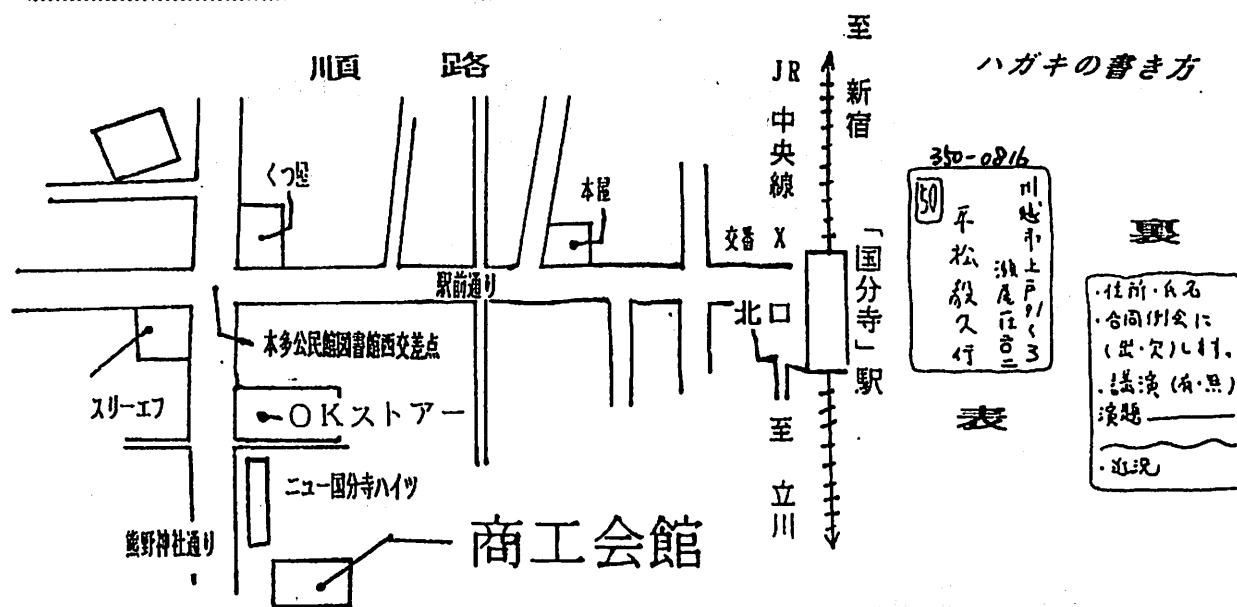
東京都国分寺市本多2-3-3 (Tel 042-323-1011)

J R 中央線「国分寺」駅北口下車 徒歩約10分

「総会」と講演。

事務局・平松毅久 (Tel 0492-33-8792)

いつものように同封



∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞

2000年度 メモリアル採集録発行会

1 烟 菲 東京都町田市 鶴立小山田銀物

2. 日 程 第1回 5月21日(日) 第2回 7月 2日(日)
第3回 10月15日(日) 第4回 2月18日(日)

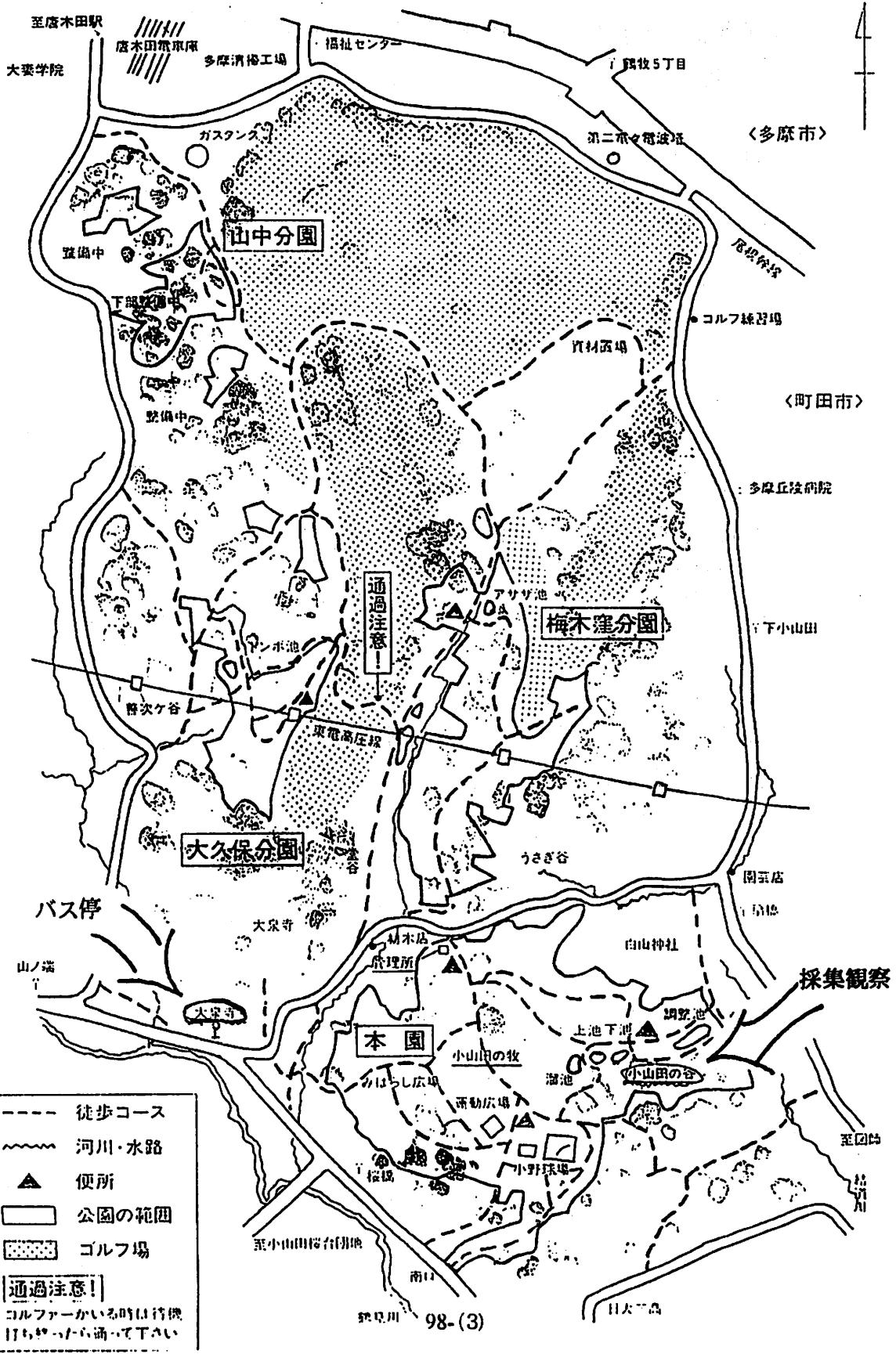
3. 集合 小田急線町田駅バスセンター 12番乗り場 10時10分
☆10時22分発 神奈川中央交通小山田行きに乗り、大泉寺バス停
で下車。 所要時間 約30分 運賃片道 280円
※ 10時22分以降のダイヤ 11時42分(1時間に1本程度)

4.コース 大泉寺バス停より 小山田緑地へ。昼食は、**小山田の谷**の予定（トイレ、水場あり）売店がないため、弁当は用意しておいてください。

5. 世話人 参考圖 (Tel 042-755-3086)

都立小山田公園

0 100 200 300 400 500 600



1999年度第3回採集観察会 1999/10/17 於 山梨県大月市扇山 天候曇り

今年はいつになく夏を引きずったままの秋になってしまったようだ。9月の東京の平均気温はなんと沖縄県名護市ほどだったとニュースが伝えていた。ところが採集会前々日から一気に気温が下がってしまった。それでも、これで例年並みだという。暖かさというより暑さに慣れてしまった体には少々寒さがこたえたものだ。当日も朝からどんよりと曇っており、少し天気が気になった。集合の時刻になんでも6名しかいなかった。やはり、この天気と遠さのせいかなと諦め、扇山へと向かった。けれども採集をしながらゆっくりと歩いていると、あとからあとから参加者が次第に追い付いてきて増えていった。結局、最終的には18名となった。いつもの田園で昼食となり、その後もなんと午後4時すぎまで採集が続けられた。不謹慎ながら「午後5時には八王子の飲み屋で一次会を開く」心積もりであった担当者としては、「不覚にも頑張ってしまった」というのが印象であった。

5月の大成果には遠く及ばないが82種類のクモを記録することができたので「良し」ということにしよう。2月には豚汁の会をやることに決めたので、これも目当てにして多くの方々にいらしていただければと考えている。

(新海 明)

参加者（敬称略）：赤羽尚夫，泉 宏子，今井正巳，梅林 力，大川秀治，笠原喜久雄，加藤むつみ，工藤泰恵，笹岡文雄，新海 明，高橋 登，谷川明男，萩本明洋，萩本房枝，初芝伸吾，初芝琢磨，初芝 涼，安田明雄（以上18名）

目 錄

シグモ科 ジグモF住居

ユウレイグモ科 ユウレイグモF e

ミヤグモ科 ミヤグモy

ウズグモ科 オウギグモF, マネキグモy

ヒメグモ科 オオヒメグモf, ヤリグモy, ツノナガイソウロウグモy, オオツリガネヒメグモFM, チリイソウロウグモF y, ヒメグモF y, フタオイソウロウグモy, オナガグモf y, サトヒメグモF, スネグロオチバヒメグモm, ツクネグモy, ハラダカツクネグモF, ムラクモヒシガタグモy, シモフリミジングモy, カニミジングモf, バラギヒメグモy, ミヤシタイソウロウグモy,

サラグモ科 クスミサラグモy, ユノハマサラグモy, アシナガサラグモF, ヘリジロサラグモy, ツリサラグモy, フタスジサラグモy, ハナサラグモF, デーニツツサラグモF, アショレグモF y,

センショウグモ科 センショウグモy e,

カラカラグモ科 ヤマジグモy,

コガネグモ科 ゴミグモy, ギンメッキゴミグモy, ジョロウグモFM, ヤマオニグモy,

ワキダロサツマノミダマシF, ナガコガネグモF, ヤマトゴミグモF, ヨツデゴミグモf
y, メガネドヨウグモy, オオトリノフンダマシe, ハツリグモy, イシサワオニグモF,
オニグモy, ムツボシオニグモy, シロスジショウジョウグモy, サガオニグモy, キザ
ハシオニグモy, カラフトオニグモy, ヌサオニグモy, タニマノドヨウグモy, コガタ
コガネグモe,
アシナガグモ科 アシナガグモF y, キララシロカネグモF, ウロコアシナガグモy,
ヒラタグモ科 ヒラタグモF y,
タナグモ科 クサグモF e, コクサグモF, メガネヤチグモF, アズマヤチグモM,
ササグモ科 ササグモy,
コモリグモ科 ウツキコモリグモy,
キシダグモ科 イオウイロハシリグモy,
カニグモ科 ハナグモF, ワカバグモy, クマダハナグモy, コハナグモy, セマルトラ
フカニグモF, ハナグモy, フノジグモF f, ガザミグモy,
エビグモ科 キハダエビグモf, シャコグモF y,
ハエトリグモ科 アオオビハエトリy, アリグモm, マミジロハエトリM, デニツツハ
エトリFM, チャイロアサヒハエトリy, カラスハエトリy,
アシダカグモ科 コアシダカグモy,

計19科82種



「クモの網展」開催中!!!

本会会員であり、網標本製作のパイオニアである船曳和代さん（兵庫県姫路市）による
クモの網の標本展です。

場所： 千葉県立中央博物館・本館
千葉市中央区青葉町955-2 月曜休館
(Tel 043-265-3111)
開催期間： 2000年1月15日(土)～2月13日(日)

尚、詳細は工藤泰恵さんまで。(Tel 0471-32-6853)

KISHIDAI担当は木村知之 T215-0012神奈川県川崎市麻生区東百合丘4-38-12
原稿送付は池田博明 T258-0018神奈川県足柄上郡大井町金手1099

@@ 東京蜘蛛談話会・多足類懇談会合同例会報告 @@

1999. 12. 5 (日) 10:17 ~ 16:21 東京都国分寺市 国分寺市商工会館 3階「大会議室」
司会：平松毅久 (スライド：谷川明男・新海栄一)

- (1) 開会挨拶：萱嶋 泉 10:17 ~ 10:18
(2) 講演 10:19 ~ 16:20
- ①新海明・谷川明男「県別クモリストの分布およびリスト作成について」
(レジメ・スライド)
 - ②宮下和喜「コガネグモの飼育結果」(スライド)
 - ③萱嶋泉「マカラシガとシリアゲアリとクモの関係について」(レジメ・掲示)
 - ④高橋登「アルブレヒト・フォン・ローレツと日本のクモ」(レジメ・スライド)
(記念写真・昼休憩・自己紹介 11:53 ~ 13:45)
 - ⑤金子信博「三瓶山のミドリババヤスデの生態」(レジメ・スライド)
 - ⑥小野辰嗣「ヨーロッパこぼれなし」(スライド)
 - ⑦新海栄一「ゴケグモの♂はなぜ食べられるか」(スライド)
 - ⑧原山紀夫「西表の多足類」(スライド)
 - ⑨西野洋一「沖縄の多足類'99」「西表島にいたアゴナガジムカデ属の一種」(レジメ)
 - ⑩谷川明男「沖縄のクモ 1999」(スライド)
- (3) 閉会挨拶：萱嶋 泉 16:21
(4) 懇親会 16:22 ~

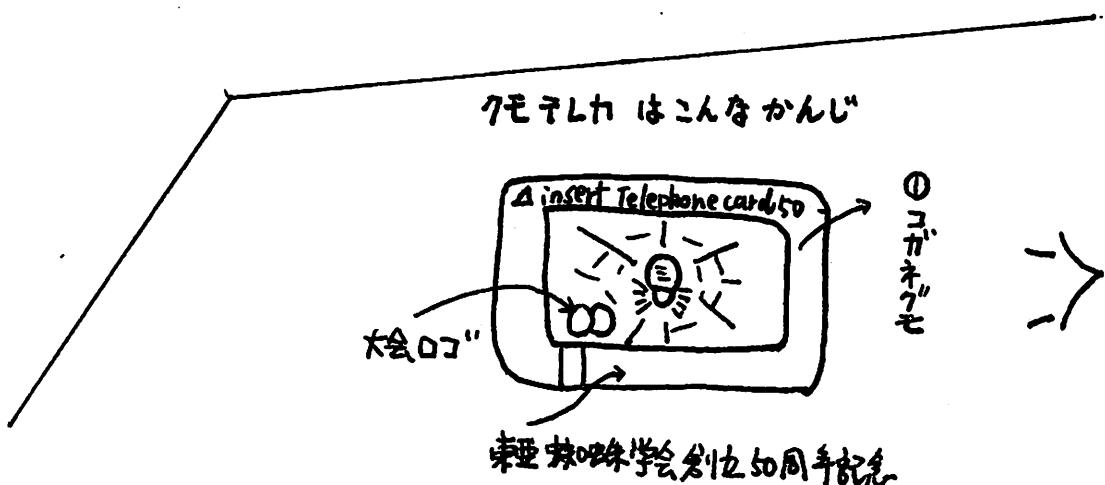
参加者

池田博明、石島 力、今井正巳、大類正久、小野辰嗣、加藤むつみ、萱嶋 泉、
木村聰子、木村知之、工藤泰恵、小峰光弘、笹岡文雄、貞元己良、佐藤幸子、新海 明、
新海栄一、高田 実、高橋 登、谷川明男、千田高史、豊田 鮎、中島晴子、新島溪子、
西野洋一、橋本みのり、初芝伸吾、初芝 涼、原山紀夫、古浜 隆、平松毅久、宮下和喜、
八幡明彦

(32名・50音順・敬称略)

お知らせ

多足類懇談会の都合により、本会を持ちまして合同の例会を行わないことになりました。
今後は当会、多足類懇談会とも単独で例会を開催することになります。



テレホンカードはおいくら！？

物を集めることに意味を見出す生物は人間だけでしょう。博物館の期限もエジプトのファラオの収集癖に端を発しています。今の世の中もお金があれば書画骨董、美術品、なければないで路傍の石までもおよそ人が価値を見出さない物はないかもしれません。

クモグッズはともかくとして、一昔前でいうとは郵便切手がもっともポピュラーな収集品でした。最近の定番はテレフォンカードでしょうか。クモ研究者の中にもそちらのプロの方もいるかもしれません。ただ図案がクモであるものは収集癖などとあまり関係なく、それなりにを集められているようです。日本の切手にはクモの図案のものは今のところありません。テレホンカードはどうでしょうか。切手のように公的機関が発行する物ではないので、実体はつかめません。

昨年、千葉のデパートの即売会でクモ図案のテレホンカードが、売られていたそうです。3種類、1枚¥2,500のこと。これが高いか安いか、どう思うか難しい問題です。クモ図案の物は僅少であることは間違いありません。問題はそれをほしいと思う人がどれほど存在するか。物の価値とは常に相対であるわけですが、価値を見出した人にとってはそれはまさに絶対的です。その辺にはどこか研究対象としてのクモそのものにも通じるものを感じます。

(テレカデータ)

1986年東亞蜘蛛学会創立50年を記念する第18回大会総会で作成された物です。大会会場では第1シリーズ台紙付き4枚1組(バラ売りもあり)が販売されました。パンフレットが手元にないため記憶では、その後3シリーズの発行が予定され、計16枚のシリーズになる予定だったと思います。1枚50度数、定価は残念ながら確かな記憶がありません。カード1枚¥1,000以下だったように思います。販売は学会外部にも行われるとされていました。

ただその後製作会社のトラブルにより第2シリーズの1枚だけが予約者に販売されだけで、その後の物は製作されていないはずです。その後の図案も決まっていましたが、そちらも現在記憶に残っていません。

詳細

第1シリーズ

- ①円網の中に遷座するコガネグモ
- ②♀に求愛する♂のヨダンハエトリを上から
- ③ホシミドリヒメグモ♀と卵嚢
- ④花の上で獲物を待つアシナガカニグモ

台紙の表紙は⑤ムツボシオニグモと同じ図案。見開き表紙裏はカードのクモの解説。左はカード4枚がはめ込まれ、裏表紙には大会ロゴと「東亞蜘蛛学会創立50年記念」の文字が入っていました。台紙には限定2000組製作、そしてシリアルナンバーが入っています。

第2シリーズ

- ⑥水平円網とムツボシオニグモ1枚のみ、台紙なし。

このコラムを書くに当たって工藤泰恵さん、加藤むつみさんお二人に情報をいただきました。ありがとうございました。誌面を借り、お礼申し上げます。

(編)

近況つづれづれ

合同例会出欠ハガキから
(一部編集・居所はハガキの記載による)

☆石島 力 (神奈川県川崎市)

最近は大学の研究が忙しくて採集にはほとんどいけません。この前の採集会も残念ながら欠席してしまいました。でもなんとか暇をみつけて採集会には出席していきたいと思っています。

○石野田辰夫 (宮崎県佐土原町)

今年は小生所の庭の隅でジムグリが生まれ、よくみかけます。クモは特にジョロウグモが沢山いるようです。

☆今井正巳 (神奈川県相模原市)

今、ザトウムシを中心に採集しています。

○梅林 力 (東京都杉並区)

ボチボチ趣味の出糸突起や出糸管について調べています。なかなかおもしろい発見があり楽しい日を送っています。でも冬眠?の季節で、淋しいです。

☆小澤實樹 (東京都世田谷区)

クモ便りができるのが残念です。なんとかします。

○小野展嗣 (東京都新宿区)

10ヶ月ほど日本を留守にし、ドイツの大学で研究してきました。

☆木庭 奏 (熊本県山鹿市)

体調を崩し、もっぱら家の周りの観察を中心です。今年は蜘蛛の出現が、例年よりも多く、二十年振りに我が家で、コガネグモの幼蛛から亜成蛛までの成長を見ることが出来ました。ナガコガネの幼生からの成長

(途中まで) ヤマシロオニグモ、サツマノミダマシ、ヌサオニグモ(30年振り)、ビジョオニグモ(30年振り) 何れも5月中旬から見られました。昨秋博物館から持つて来て、やっと孵化から亜成体まで成長したジョロウグモも T. No.18 でまた何れかえ飛ばされて下さい、がっかりしています。

○佐藤幸子 (神奈川県横浜市)

相かわらずオオヒメグモの観察を続けて居ります。寒暖の差がはげしいのでひどい風邪を引いてしまいました。なかなかなお

らないのでユーワツな毎日を送って居ります。

☆嶋田順一 (埼玉県飯能市)

あいかわらずやきとりを焼いております。毎年、今の時季は、店の前の通路にイエオニグモが、けい光燈の回りに、たくさん網をはります。しかし、今年は異変が起こってしまいました。そのイエオニグモ達の網張りに珍入者がありました。クサグモが堂々とりっぱな棚網を張ってしまったことです。はじめは2頭のクサグモが隣接して、網を張っていたのですがそのうち、1頭が逃げ出してしまったのです。地面2m 30cm位の所で今は一本のけい光燈の回りにクサグモとイエオニグモの網が仲良く?張られています。(10/14記)

○須賀瑛文 (岐阜県可児市)

身近な地域のクモと名古屋城、犬山城クモを調べていますが、目が悪くなり思うようにはかどりません。

☆高田 実 (埼玉県朝霞市)

このたび新しく入会いたしました。私は虫屋から変形菌に移り、極最近になって蜘蛛へも興味をもちまして、99年後半は変形菌よりも蜘蛛採集がメインになってしましました。蜘蛛だけを追われる方の足手まいにならないよういたしますので今後ともよろしくお願いいいたします。

○東條 清 (和歌山県海南市)

今年、コケオニグモ♀1(和歌山では3例目)が高野山で、ヒゲナガハシリグモ♀1(和歌山県では2例目)が那智勝浦町で見つかっています。

☆新村 誠 (神奈川県川崎市)

相変わらずの不勉強でクモにはちっとも詳しくならないのに森林インストラクターの中では"クモ屋"でかなりいけちゃっています。ってことはいかにクモの世界がまだまだ浅いかを思い知らされます。自分なりに「クモ屋だぞっ」て胸を張れる時が来る

と良いなと思いつつ、いずれお会いしてまた何かと教えてください。

○野崎文江（埼玉県毛呂山町）

ジョロウグモをおいかけています。10月下旬メスは卵をかかえているせいか全体のもううが美しく体形もふっくら赤の色も桃の花のような色、秋の日ざしの中に…輝いてみえます。クモの中で一番あでやかさを持ったクモだと思います。毎年この美しさにはれこんでおいかけています。

☆峯澤 渉（神奈川県横浜市）

「なぜ蜘蛛が好きなのか」と問われたら、「その姿が（私にとって）美しいから」と答えます。そして遅まきながら、蜘蛛の本

を読み、かれらの生態の素晴らしいを知り、更に魅かれています。…円網を張るクモの足先の爪 なんて、なんてスゴイんでしょう！

その他通知をいただいた方々

出席

萱島 泉、新海 明、高橋 登、谷川明男

欠席

千国安之輔、中平 清、藤井靖浩、

松田久司

~~~~~  
1999年5月受付、山本一幸さん（兵庫県浜坂町）ハガキより

No.96の通信をいただき、場所をチラッと見て、「扇ノ山」？！えーっ、近くだがなー！」と驚きました。けど、よく見ると山梨県、なあんだ…。同じような名前の山って全国にあるんだなあと思いました。もっともこちらは扇ノ山（おうぎのせん一標高 1,310m）、兵庫と鳥取の県境にあり、中国山地の東の端。そのおかげで、ダイセンヤチグモなどが採集される。日本海側に面しており、冬は積雪が3mにも及ぶ。ブナの原生林があり、クモでは他にキノボリキヌキリグモやズキンヌカグモ、コオニグモモドキ、イシサワオニグモ、エゾアシナガグモ、シボグモモドキ、シノビグモなどが採集される。

こちらの山だったら、自宅より車で40分ほどの場所だから、絶対、参加したのにな。

今年は、合宿が石川県敦賀市とか、こちらも日程の調整が取れそうもなく、ちょっと参加は無理ですが、関西方面での開催は有り難く思います。また、近くでお願いします。

#### 1999年度談話会通信（No. 96～98）に投稿などをしていただいた方々

○原稿

平松毅久、新海 明、和仁道大、野崎文江、笹岡文雄

◇切り抜き

萱島 泉、梅林 力、小池牧子、嶋田順一、高橋祐子、山川 守、篠原圭三郎

笹岡文雄

▽近況ハガキ

梅林 力、小澤實樹、初芝伸吾、初芝 涼、佐藤幸子、新村 誠、萩本房枝、峯澤 渉  
野崎文江、徳本 洋、斎藤慎一郎、鶴崎辰臣、中平 清、石野田辰夫、谷川明男、  
八幡明彦、石島 力、今井正巳、小野展嗣、木庭 奏、嶋田順一、須賀瑛文、高田 実  
東條 清

（順不同・敬称略）

原稿は全て1999年度中掲載させていただいたものです。切り抜きは過年度いただいたものがかなりあります。また観察会・例会総会など談話会公式行事の記事については集計してありません。

今年度もたくさんの投稿ありがとうございました。（「談話会通信」編集担当：笹岡）

## 通信N0.96 号の訂正とお詫び

賢明なる読者の皆様の中には既にお気付きの方もいらっしゃることと思いますが、通信96号に掲載された1999年2月21日の天覧山（1998年度採集観察会）の目録中にある「ホウシグモ」は誤同定の可能性がかなり高くリストから削除します。というのもこのクモは、Ono & Tanikawa (1990) によると、確実な産地が南九州（宮崎、鹿児島）で、その他では八木沼が "The spider fauna of Japan (revised in 1970)" の中で四国を産地に挙げています（ただし四国産の標本は確かめることができなかったとのこと）。その後本州でまだ記録がないらしく（小野、1996）分布上疑問がある上、肝心の天覧山でホウシグモと同定されたクモの標本が残っていないため確認のしようがないという理由によるものです（本種を同定した貞元氏はナミハグモの仲間の幼体であった可能性を示唆されています。もっとも本種或いは未記録のホウシグモ属の一種が生息する可能性が全くないとは断定できませんが…）。

実は採集会当日から最近に至るまで筆者は、関東でも神奈川県の神武寺や東京の八王子城址で記録のある同じホウシグモ科のドウシグモと混同したままで、天覧山のリストをまとめるにあたり確認したところ間違いに気付いたというお粗末な話でした。仮のリストとはいえ筆者の勘違いと知識不足から会員の皆様を惑わせて申し訳ありません。

### 参考文献

- Ono, H., & A. Tanikawa, 1990. A revision of the Japanese Spiders of the Genus *Langbiana* (Araneae, Zodariidae). Memoirs of the National Science Museum, Tokyo, 13:101-112.  
小野展嗣, 1996. 日本産クモ類科名表. 日本動物大百科第8巻昆虫I : 25-27. 平凡社.  
東京. 188pp.

文責 平松 毅久

---

## 通信N o. 97付録の訂正とお詫び

前号通信N o. 97付録1につきまして、「ガイドブック新宿区の文化財(6)」の提供を梅林力さんと掲載しました。これは印刷原稿作成の際、編集のミスで誤って記載してしまったものです。正しくは嶋田順一さんの提供によるものです。

お二人には大変ご迷惑をお掛けしてしまいました。お詫び申し上げ、ここに訂正させていただきます。今後は管理を徹底し、今後このようなことがないように致すつもりです。何とぞご容赦お願い致します。

(「談話会通信」編集担当: 笹岡)



会員異動

1999年5月上旬～12月下旬

(敬称略)

(入会)

木村徳宏：〒223-0061 神奈川県横浜市港北区日吉2-20-15 (学生)  
石井幸子：〒463-0035 愛知県名古屋市守山区森孝4-147  
高田 実：〒351-0025 埼玉県朝霞市三原15-12-30  
井上孔伸：〒862-0938 熊本県熊本市長嶺東31-20-205  
成田和子：〒213-0005 神奈川県川崎市北見方1-9-35

(退会)

(希望) 中島祥吉 (規約) 宮園あがさ、宮園真理子、本木洋子

★その他の訂正とお詫び

1999年度の会員名簿で仲程悦子さんを誤って「中程」と表記してしまいました。ここに心からお詫びし、訂正させていただきます。

× 中程悦子 → ○ 仲程悦子

1999年5月にいただいた山本一幸さんからのお便りの掲載が事務局の不手際により大幅に遅れてしまいました。遠方からわざわざお便り下さった山本さんには本当に申し訳ないことをしてしまいました。心よりお詫び申し上げます。(p.9掲載)

遠方（とくに関東以遠）の会員の方々へ事務局からひとこと

事務局・平松毅久

東京蜘蛛談話会は名前に「東京」とついてはいるものの、昔から関西をはじめ中部、九州、さらには北は北海道、南は沖縄までの会員の方がおられ、近年さらに広がりを見せつつありますが、そこで1つ問題があります。それは東京蜘蛛談話会の総会、および例会に遠方の会員諸氏は時間的空間的事情により参加する事が困難であるという事実です。そこで総会(例会)の出欠確認という名目で遠方の会員の方々に、会には参加できないけれども何か言いたいことがあれば近況などご報告していただければ、滅多に会う機会がなくても元気でご活躍されている様子も伝わり会員相互の刺激にもなるという意味もあって、通信発送時にハガキを同封させていただいております。ただこれは強制ではありませんし、あくまで書きたい時に書いていただければといったきわめて自由度の高いものとご判断いただければいいと思うのですが、時にはわざわざハガキをご返送下さる律儀な方や、ハガキ代が勿体ないから同封しないでご心配下さる方などもおられて皮肉ではなく本当に恐縮してしまうことがあります。ただ誠に勝手ながら執行部の都合を述べさせていただきますと、もし遠方の方に限りハガキを同封しないことにしてしまうと、発送時にその分だけ宛先で遙り分けるなどの新たな手間が発生してしまいますし、コスト的にも大勢に影響はありません。また近況を自発的に書いていただいている方からもその機会を奪ってしまうことになります。そこで遠方の方だけでなく会に参加できないすべての会員の方にお願いです。出欠ハガキは強制ではありませんので、もし書くのが手間だと思われるようでしたら堅い事は言わずにハガキ送付も会員への平等なサービスの一環とお考えいただいて何か別の有意義なことにお使い下さい。義理堅いのは良い事ですが、それだけでは疲れてしまいます。もっとおおらかに、時には良い意味で横着に(といつても私のような横着者ばかりでも困ると言われそうですが)そうすればお互い幸せになれると思うのは私だけでしょうか。

会費納入状況(1999年12月23日現在 敬称略)

◎1997年度まで納入

|             |       |      |        |       |
|-------------|-------|------|--------|-------|
| 稻葉 茂代、河又 和夫 | 吉田 翁郎 | 宮島 仁 | 山田 三重子 | 新海 栄一 |
| 生山 健        | 千田 高史 | 竹内 慎 | 福田 英克  |       |

◎1998年度まで納入

|       |       |        |        |       |       |       |
|-------|-------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 井原 庸  | 稻垣 成二 | 笠原 須磨生 | 宮下 直   | 宮本 美織 | 糸川 和子 | 桑江 司  |
| 古沢 笑子 | 後藤 好正 | 斎藤 博   | 小池 牧子  | 上原 健  | 西条 雄介 | 西川 喜朗 |
| 石島 力  | 赤羽 尚夫 | 川崎 慎二  | 大河内 哲二 | 鍋田 修身 | 木藤 幸雄 |       |
| 野嶋 宏一 | 浪波 徳義 | 浜村 徹三  |        |       |       |       |

◎1999年度まで納入

|        |        |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 芦田 喜治  | 安田 明雄  | 井上 孔伸  | 井野 文雄  | 磯部 達男  | 引田 和明  |
| 永井 均   | 塩崎 哲哉  | 横山 和正  | 荻島 久子  | 下謝名 松榮 | 加藤 むつみ |
| 加藤 輝代子 | 加藤 七枝  | 海老原 憲昭 | 貝堯 憲治  | 萱嶋 志門  | 苅部 幸世  |
| 亀川 宇多子 | 吉倉 真   | 吉田 哉   | 吉澤 美香  | 久保田 克哉 | 及川 照代  |
| 古川 渉   | 古浜 隆   | 甲守 崇   | 荒金 泰子  | 高橋 米夫  | 高橋 祐子  |
| 高田 実   | 高田 勝   | 国見 裕久  | 佐久間 良三 | 佐々木 勝實 | 佐々木 智雄 |
| 佐藤 和昭  | 細田 みどり | 笹岡 文雄  | 山川 守   | 山本 一博  | 守 桂子   |
| 酒井 理彦  | 秋元 昇   | 秋山 亜由子 | 初芝 伸吾  | 初芝 凉   | 小笠原 幸恵 |
| 小川 敦央  | 小峰 光弘  | 小林 健一  | 松田 浩二  | 松田まゆみ  | 松本 誠治  |
| 新井 弥生  | 森 要    | 須賀 瑛文  | 水野 陽介  | 菅波 洋平  | 西尾 三枝子 |
| 斎藤 慎一郎 | 石井 幸子  | 泉 宏子   | 浅間 茂   | 前川 隆敏  | 早乙女 薫  |
| 増原 啓一  | 大久保 光将 | 大川 秀治  | 大野 正男  | 大利 昌久  | 谷川 明男  |
| 池田 千洋  | 池田 泉   | 池田 博明  | 中平 清   | 中野 隆雄  | 朝倉 幹晴  |
| 長田 佐智子 | 長島 忠義  | 鶴崎 展亘  | 田中 一裕  | 田中 徳久  | 田副 幸子  |
| 唐沢 良子  | 鳴田 順一  | 鶴田 忠雄  | 徳本 洋   | 南部 敏明  | 日下部 光代 |
| 入江 照雄  | 萩本 房枝  | 八幡 明彦  | 伴 満    | 板倉 康弘  | 浜口 哲一  |
| 平野 健一  | 米田 宏   | 峯澤 渉   | 牧 孝匡   | 本間 征   | 福島 彬人  |
| 木村 正明  | 木村 知之  | 木村 徳宏  | 木庭 奏   | 野戸 章   | 木村 正吾  |
| 林 聰彦   | 鈴木 勝浩  | 鈴木 成生  | 和仁 道大  | 諒訪 哲夫  | 林 俊夫   |

◎2000年度まで納入

|        |       |       |        |       |       |       |
|--------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| 安藤 昭久  | 加村 隆英 | 萱嶋 泉  | 関口 晃一  | 宮下 和喜 | 権田 重雄 | 高橋 登  |
| 佐々木 健志 | 坂寄 廣  | 山本 一幸 | 緒方 清人  | 小野 展嗣 | 小澤 實樹 |       |
| 松田 久司  | 新開 孝  | 新村 誠  | 石野田 辰夫 | 船曳 和代 | 増田 進  | 大石 洋人 |
| 中島 晴子  | 長島 充  | 田中 穂積 | 藤井 靖浩  | 梅林 力  | 畠守 有紀 | 浜岡 史子 |
| 平松 豊久  | 北島 博  | 野崎 文江 | 蓮沼 克巳  | 井上 尚武 | 藤沢 庸助 |       |
| 貞元 己良  |       |       |        |       |       |       |

◎2001年度まで納入

|        |        |       |       |       |       |
|--------|--------|-------|-------|-------|-------|
| 笠原 喜久雄 | 菊屋 奈良義 | 工藤 泰恵 | 今井 正巳 | 佐藤 幸子 | 山野 忠清 |
| 新海 明   | 川崎 拓兵  | 仲程 悅子 | 東條 清  |       |       |

◎2002年度まで納入

|      |       |       |       |      |
|------|-------|-------|-------|------|
| 吉田 真 | 古内 栄一 | 小川 光昭 | 立川 晴二 | 棚沢 新 |
|------|-------|-------|-------|------|

◎2005年度まで納入

|       |       |
|-------|-------|
| 熊田 憲一 | 布施 佳子 |
|-------|-------|

◎2006年度まで納入

|      |
|------|
| 原 勝司 |
|------|

’99.5.21  
朝日新聞

梅林 力さん提供

No. 98

北の友人から、「雪虫」の便りが届いた。晩秋の暖かい日、北海道では綿のような小虫が数知れず飛ひ交う。この虫が現れると雪が近いので、そう呼ばれる。一般にはアブラムシ科のワタムシで、北海道ではトドノネオオワタムシが多い。

雪虫の最盛期は一日の平均気温が一〇度くらいの時だ。札幌がその気温になるのは十月二十日である。初雪の平年までの一週間後の二十八日で、雪虫と雪との関係も言われる通りだ。東京の気温が一〇度となるのは一ヵ月後の十一月末である。

東北には「雪迎え」がある。暖かい日に枯れ草の枝に登った小クモが、糸を出し上昇氣流に乗って、空のかなたに飛んで行く。この現象も雪を呼ぶので、その名がある。

雪迎えは、中國では「遊絲」や「飛糸」、西洋では「天使の髪（エンゼルヘア）」。「ロミオジュリエット」にも登場するなど世界中にある現象のようだが、いまでも見られるのだろうか。（平沼 道司）

’99.10.29  
朝日新聞

# 耳の中

’99.9.22  
毎日新聞（朝）  
提供：笛岡

紀伊半島の南西部を占める和歌山県は、耕地(県総面積の八・五%)に恵まれない山ばかりの文字通り「木の国」(紀伊國)ですが、隆起と沈降の変化に富んだ長い海岸線とともに風光明媚な自然が、まことに魅力的な所です。そして、山川草木すべての自然と人情が織りなす民話や伝説の宝庫でもあるのです。何年か前、なつかしい古老の方々から話して頂いた、それらの伝承の数々うち、できるだけ環境衛生に因んだものを、今ここに紹介できることは、とても幸せだと思います。(著者)

### ▼▲東牟婁の民話▼▲

## 那智の大蜘蛛

島村友子(再話)

那智の滝で名高い那智山(和歌山県東牟婁郡)は、本来、熊野権現や青岸渡寺(那智観音・西園三十三所第一番札所)で知られた、那智川上流一帯の原生林におおわれた霊場で、ここには三六の坊(寺)があり、昔から常時、二〇〇人ぐらいの修験者が住みついていたといわれます。加えて、信仰心のあつい参詣者たちも、全国から集まってくるので、お山は、いつも、たいそうにぎわっていました。

それに、人びとが持ち込んでくる諸国

のめずらしい供物の数々で、お山は豊かに栄えていました。ところが、およそ四〇〇年ばかり前、この供物が、一夜のうちにコメ一粒ものこさず消えてしまうという不思議なことが、ちょいちょい起りました。「こがなことが人間業で出来るはずがない。ぬすつとは、得体の知れん化けもんに決ました」と、修験者の坊さまたちは、おそらくしげに、ささやき合いました。

しかし、おびえてばかりもいられませ

て矢を射て、音のするほうへ矢を射てエ」と、坊さまたちは、走り出て、間に向って一せいに、何百本、何千本という矢を放ちました。

「それ、来よったぞ。ええか、風に向かっても供物という供物が、アワ一粒もか、風が止んで、夜が明けて見ると、まことにコメ一粒ものこさず、きれいになくなっています。しかも、坊さまたちの放った矢が、さまたちは、おそろしげに、ささやき合いました。しかも、坊さまたちの放った矢が、ことごとく二つに折れて松葉のように、お山中にちらばっていました。

「いまだ、こがにおとろしいもんにはお

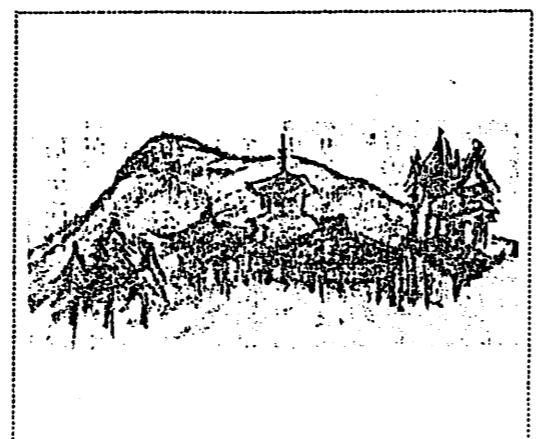
おたことがない。こりゃ、われらには、とても、かなわん」と、坊さまたちは、みな、改めてふるえあがりました。

さて、ちょうど、その頃、那智山の奥に色川という部落があつて、そこに、刑部左衛門という落ち武者が隠れ住んでいました。この侍は、どこの戦で敗れたのか、どこから落ちてきたのか、誰も知りませんでしたが、ただ武芸に秀で、め

ました。その強い評判がたつていました。一方、得体の知れぬ供物ぬすつとに、すっかりまいった那智山の坊さまたちが、この侍の噂を耳にしたときは、おどりあがつてよろこびました、早速、坊さまたちは、色川へ使を出して、お山の化けもん退治を、刑部左衛門にたのみました。すると、「それは難儀なこと、いかにも心得たり」と刑部左衛門は、別に驚くふうもなく、あっさり引き受けてくれたので、使いに行つた坊さまの代表は、ちょっとひょうし抜けしてもどつきました。

しかし、それからしばらくたった闇夜に、刑部左衛門は、たつた一人で、ふらりと、那智山へやってきました、そして、お山で一番大きな坊の鐘塔の陰に座禅を組んで、静かに化けものの現われるのを待っていました。

やがて丑の刻も過ぎた頃、突然、岩を



(29)

がしずまると、まず相談を始めました。しかし、刑衛左門は笑って、「わしは何もいらぬが、色川村は貧しくて刻を知らせる鐘一つない。那智の坊からは鐘を一つもろうてまいり」と言って、自分で鐘楼の鐘をはずすと、それを、がらがらと引っぱって、のんびり山の奥の村へ帰っていました。この時、鐘のイボイボが、すっかり擦り減ってしまったので、

那智の鐘には、今だに、その隆起したイボ(乳という)がないということです。また、当時の色川村は、あまりの山奥で、コメもムギもできず、村民は、椎の実を主食にしていたのですが、刑部左衛門が大蜘蛛を退治してくれたのちは、那智山から、毎年、たくさんの食糧が送られました。このとき、鐘のイボイボが、すっかり擦り減ってしまったので、

(原話)那智山青岸渡寺・高木亮孝師)

「環境衛生」  
昭和53月8号

篠原圭三郎さん提供



花堅原芳明著

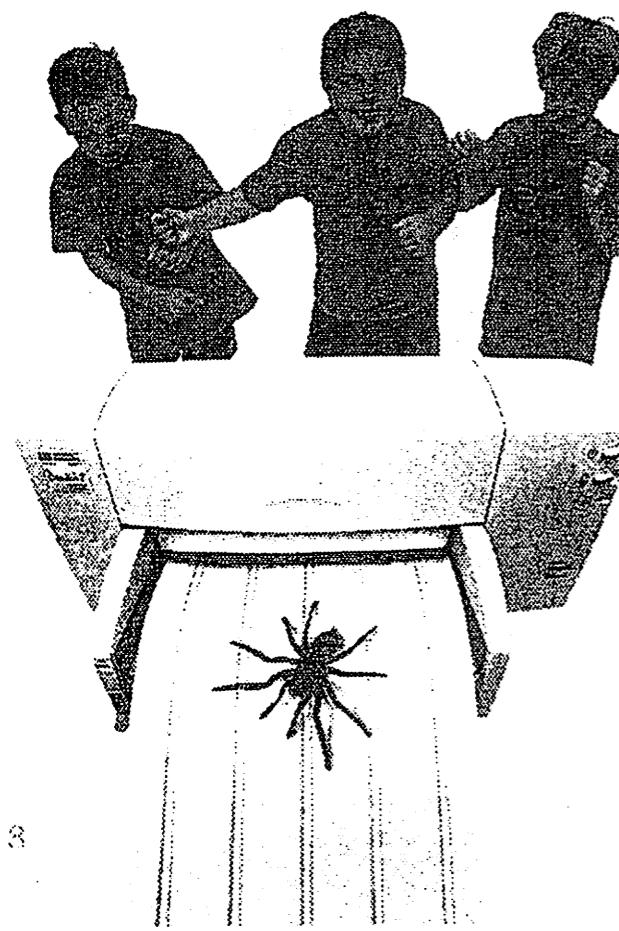


118  
付録3

少年小説大系 別巻4  
少年漫画傑作集(2)  
(原著:昭和23年 昭文社  
提供:複興)

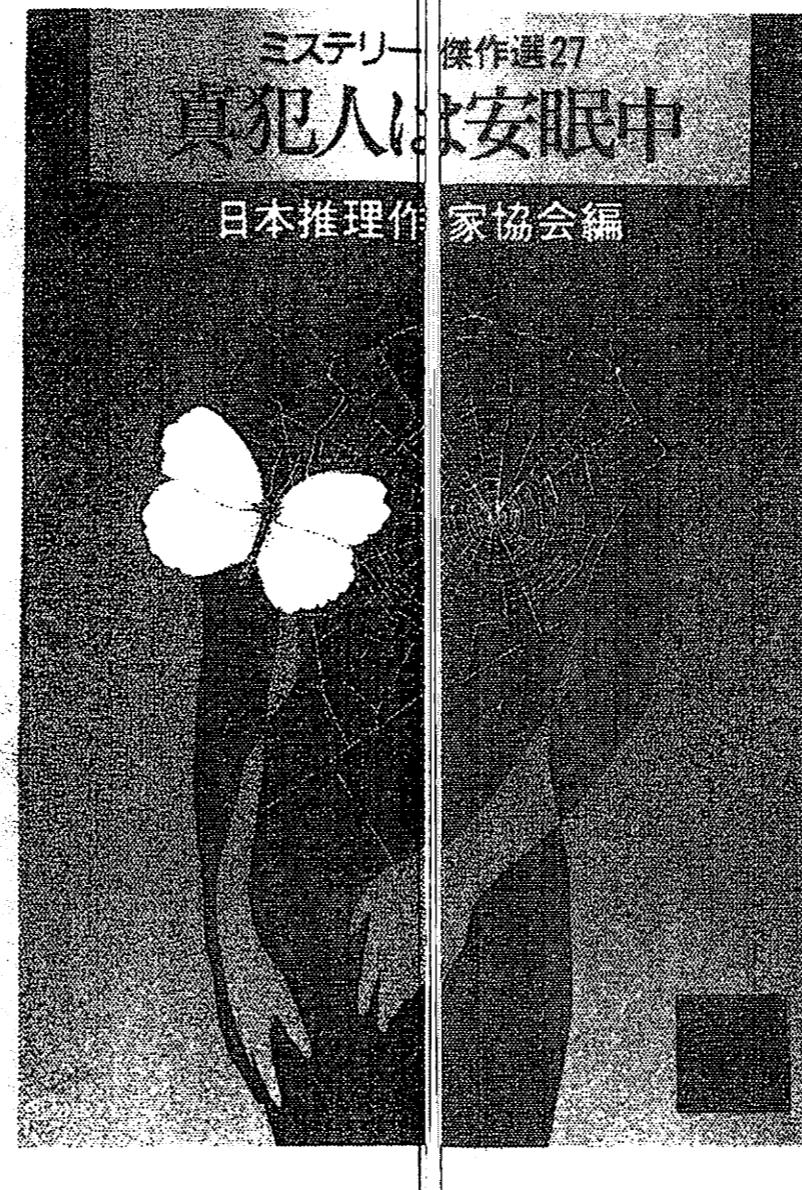


1964.4.23  
産経新聞  
小池牧子さん提供

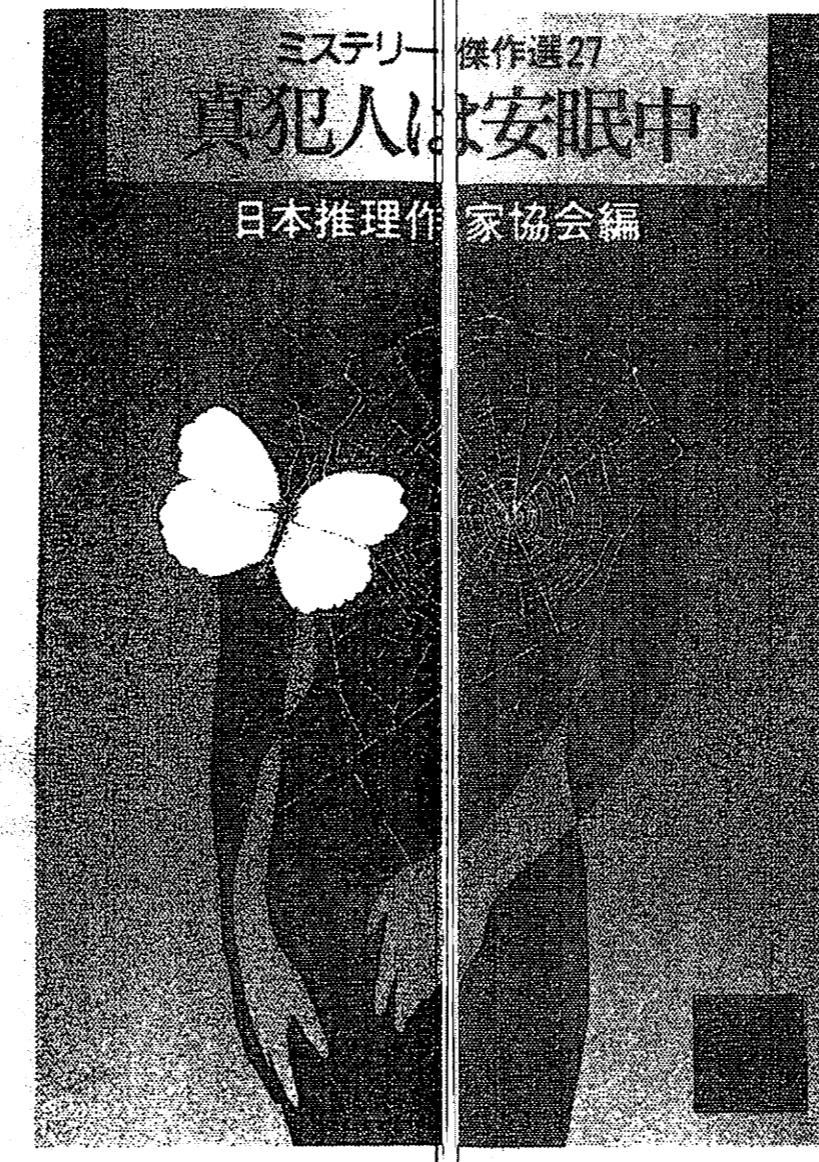


No. 83  
付録4

Marta Stewart Living No. 55  
小池牧子さん提供



講談社文庫  
提供：篠崎



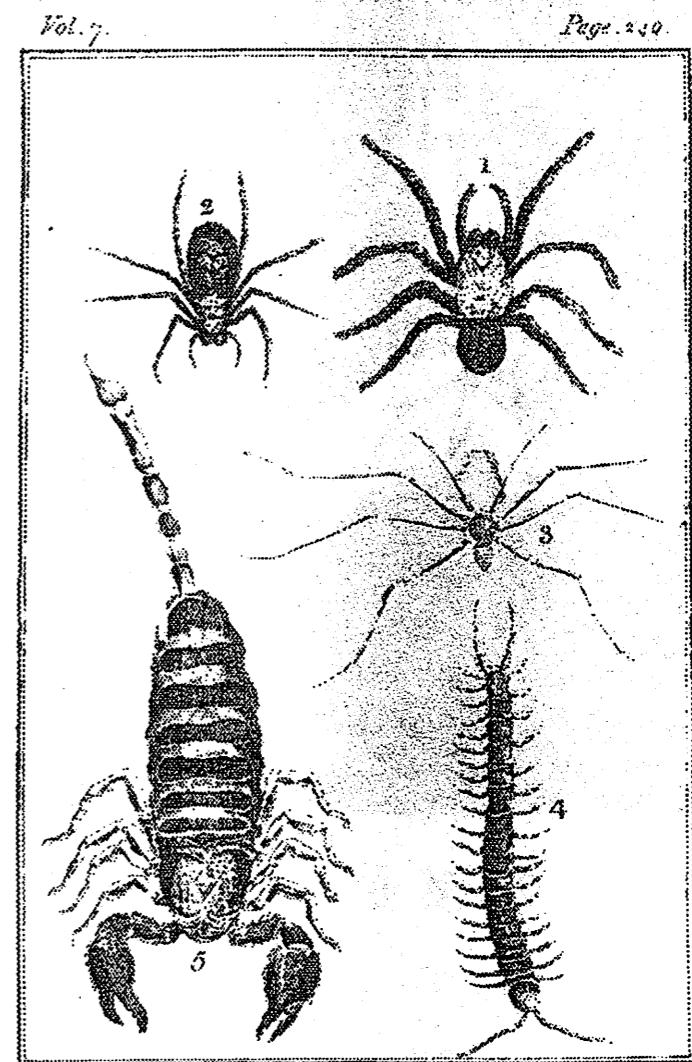
傑作選27

# ミステリー 真犯人は安眠中

日本推理作家協会編

「ワールドスマス動物誌」  
'96.11 原書房 p.245

提供：篠崎



1. 2. 3. Spiders.  
4. The Scolopendra.  
5. The Scorpion.

245

1. 2. 3. クモ  
4. オオムカデ 5. サソリ